

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述式・記述式・記号式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

I・IIがアジア史中心, III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

IVAで記号選択問題が出題された。

その他トピックス

昨年度は第二次世界大戦後など, 現代史からの出題が多かったが, 本年度は現代史からの出題がなかった。

IIIの300字論述問題は, 完成シリーズ『世界史論述』の第13・14講4番の問題がズバリ的中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	ヨーロッパ人宣教師の中国での活動	16世紀にヨーロッパ人宣教師が中国に来るに至った背景と, 16~18世紀の彼らの中国での活動とその影響について説明する300字論述。「活動」と「影響」について, どこまで書き込むか判断が難しい。	やや難
II	A 記述	関中に都を置いた王朝	関中盆地に都を置いた中国古代の王朝を取り上げ, 関連する諸事項を問う問題。漢字表記の誤りで失点することのないように心がけたい。	標準
	B 記述	西アジアの文化の形成	ヘレニズム文化やイスラーム文化の形成をテーマとして扱った問題。文化史からの出題が多いので, 受験生にとっては点差が開きやすい問題であろう。	標準
III	論述	ドイツ統一に至る過程	1815年を起点とし, 1871年のドイツ統一に至る過程を, プロイセンとオーストリアに着目して説明する300字論述。書くべき事項を取捨選択して300字以内にまとめることがポイントで, 受験生にとっては点差が開きやすい問題であろう。	標準
IV	A 記述	古代ギリシア・ローマ史	古代ギリシアの民族意識や, 「ローマ」の理念をテーマに, 政治・社会経済・文化などさまざまな分野について問う問題。小論述問題が2問出題された。	標準
	B 論述	人類と動物	人類史上で, 動物が果たした役割や, 動物が被った影響について扱った問題。『白鯨 (モビーディック)』の作者を答えさせる問(24)の「メルヴィル」は難しい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年, II・IVの記述問題や小論述問題で手強い問題が出題されることもあるが, 全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので, 教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けよう。そして, 論述問題の出来が合否を左右するだけに, 普段の学習のなかで, 「歴史事象」の因果関係の理解に力点をおいて, 「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また, 中国史やイスラーム史, 古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので, 京都大学の過去問の研究を進めておくことは, 有効な学習対策となるだろう。